



# ナマズの知恵袋

令和7年(2025年)4月1日  
編集・発行 滋賀県立図書館

## テーマ「細見!お江戸」



出版人、蔦屋重三郎(俗称・蔦重)の時代。ことば、出版、浮世絵、仕事とくらし…江戸の文化を調べたいときに役立つ本を紹介します。

### 江戸のことば

- 『絵解き江戸っ子語大辞典』笹間良彦著画 遊子館 2003年【R-8183-サ】江戸っ子独特の仕草もふくめて1200あまりの図版を用いて絵解きしています。読んで、見て、楽しみながら調べることができます。職人ことば、町人ことばなど、歯切れのよい江戸っ子語を幅ひろく収録しています。
- 『江戸時代語辞典』瀬原退蔵編著 角川学芸出版 2008年【R-8102-I】江戸時代の文学作品のなかに頻出する用語、用例を中心に2万1千を超える語を収録しています。巻末に出典一覧を掲載しています。
- 『江戸ことば・東京ことば辞典』松村明[著] 講談社 1993年【4-8183-マ】暮らしのなかでいまも使われている「江戸ことば・東京ことば」をまとめた小辞典。巻末に語彙索引、出典索引を掲載しています。
- 『明治東京風俗語事典』正岡容著 筑摩書房 2001年【4-8183-マ】寄席芸能研究家である著者が、明治時代に息づいていた東京ことばを集めたもの。夏目漱石、三遊亭円朝、竹下黙阿弥など、作品のなかの生きた言葉が豊富に引用されています。

※細見とは ①くわしく見ること ②細かく示すこと。またそのために作った地図・人名録・案内記など。③妓楼や遊女の名などを明細に記した江戸吉原の案内書。(『広辞苑 第7版』岩波書店 2018年)



いったい ぜんたい どんな意味??

調べてみよう!

- ひいひいもたれ ●ちよっくらもち
- そのてはくわなのやきはまぐり
- おっと、これはかっちねえ、  
ありがたやまのときがらす

### 江戸の出版 ～ 浮世絵と本を楽しむ ～

- 『浮世絵事典 第2版 定本』上・中・下巻 吉田暎二著 画文堂 1990年【R-7218-3】浮世絵に関する事項全般を対象とした事典。描かれているものや売買も含め、幅広く調べられます。
- 『歌麿『画本虫撰』『百千鳥狂歌合』『潮干のつと』』喜多川歌麿画 菊池庸介編 講談社 2018年【G-7218-キ】蔦重が出版した喜多川歌麿「狂歌絵本」三部作をカラーで収録。狂歌の翻刻と注釈、作品の背景も掲載。
- 『はじめての浮世絵』1～3 深光富士男著 河出書房新社 2017年【JB-72】小学校中学年からを対象に、カラー図版と共に分かりやすく浮世絵の基礎知識を解説しています。

ウェブで調べたい、  
楽しみたいなら…

- 『近世文学研究事典 新版』岡本勝編 おうふう 2006年【R-9102-オ】近世文学に関する事典。「赤本」「黄表紙」などの事項や作品・著者を詳細に解説しています。
- 『江戸版本解読大字典』根岸茂夫監修 柏書房 2000年【R-0223-ネ】江戸の版本(版木に彫って印刷した書物)の文字を自分で読むための字典。日本の版本の歴史や版本の形態の解説、版本を知るための参考文献も掲載。
- 『山東京傳全集』第1巻～20巻・別巻 山東京傳[著] ぺりかん社 1993年～2024年【G-9135-サ】蔦重の元で多数の黄表紙や洒落本を書いた山東京傳の作品の、図版と翻刻(活字に起こしたもの)を掲載。
- 『江戸の戯作絵本』1～3 小池正胤編 筑摩書房 2024年【G-9135-ジ】黄表紙50篇を収録。図版・翻刻・校註と解題・解説を掲載。2巻には蔦重の出版で筆禍事件を招いた『鸚鵡返文武二道』など3作品も収録。

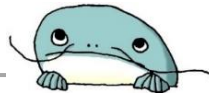
### ●国書データベース(<https://kokusho.nijl.ac.jp/>)

国内外の多くの機関等と国文学研究資料館が所蔵する古典籍(江戸時代以前の書籍)等の情報をまとめて検索できます。一部は原文の高精細画像を見ることができます。

### ●国立国会図書館リサーチ・ナビ 浮世絵の図版を探す([https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/humanities/post\\_697](https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/humanities/post_697))

浮世絵の図版の調査に役立つ情報を多数紹介。事典のほか、ウェブで浮世絵の図版を調べて見ることができるデータベースや、ポータルサイトのリンク、検索方法がまとめられています。

## 江戸の生業(なりわい)



意外な近江の名物が生業に！？  
艾(もぐさ)売りとは

伊吹山は薬草の産地として知られていますが、その中でも灸に使う艾は広く知られていました。特に、今も米原市の柏原で商いを続ける亀屋左京の商品が有名で、艾売りは旅人の姿で「江州伊吹山の麓、柏原本家亀屋左京薬艾はよう」と売り歩いたそうです。

- 『江戸の仕事図鑑 上・下巻』飯田泰子著 芙蓉書房出版 2020年【G-3843-I】「食と住まい」、「遊びと装い」の上下巻に分かれそれぞれに関わる職業が収録されています。仕事の内容だけでなく売り物や使う道具などについても、当時の図版を豊富に用いて、視覚的にわかりやすく紹介しています。
- 『江戸の生業事典』渡辺信一郎著 東京堂出版 1997年【R-3843-7】店売り・行商・職人など、約480種の生業を幅広く網羅しています。さらに、その生業に関する川柳も併せて掲載しており、その生業に対する当時の見方、考え方を生き生きと感ずることができます。
- 『鍬形蕙斎画近世職人尽絵詞』大高洋司編 勉誠出版 2017年【4B-7218-オ】浮世絵師鍬形蕙斎(くわがたけいさい)が働く人々を描いた「近世職人尽絵詞」を全編カラー図版で掲載しています。美しい図版は芸術作品としても楽しめるうえ、生業の内容については詳しい読解や解説・コラムが充実しています。
- 『江戸でバイトやってみた。』櫻庭由紀子著 技術評論社 2023年【G-3843-サ】女子高生の七緒が江戸にタイムスリップしてしまい様々な職業を体験する、という物語で職業を紹介しています。一つの職業ごとに読み物になっており、読み進めやすくなっていると同時に、江戸の古地図も解説しているので地理的な情報も得られます。

## 博物館で知る江戸時代の滋賀

### ○ 県内博物館のデジタルアーカイブで知る

各館に収蔵されている書画、美術工芸品、古典籍、絵図等が写真と共に紹介されています。

#### ●琵琶湖文化館「近江の文化財」(<http://www.biwakobunkakan.jp/shuzotop.html>)

「近江蕪村」と呼ばれた紀楳亭の絵画や雨森芳洲の書跡のほか、『近江輿地志略』や『淡海温故録』といった江戸時代の地誌も掲載されています。

#### ●彦根城博物館「収藏品」(<https://hikone-castle-museum.jp/collection>)

井伊家伝来の甲冑や刀剣、茶道具等のほか、井伊直弼の書状や彦根藩士の基本台帳である『侍中由緒帳』、彦根城の絵図等も掲載されています。

#### ●大津市歴史博物館「大津の歴史データベース」(<https://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/db/index.html>)

膳所焼や近江八景を描いた浮世絵、絵図等が写真と共に紹介されています。「急がば回れ」の語源とも言われる瀬田の唐橋と矢橋の渡しを描いた航路絵図も掲載されています。

### ○ バーチャル展示室で知る

#### ●東近江市近江商人博物館「バーチャル展示室」(<https://my.matterport.com/show/?m=uoVtuADXd6J>)

近江商人の商法や暮らし、教育や文化活動等に関する展示をバーチャルで見学できます。

★ 図書館ではこうした県内博物館の図録や研究紀要等を所蔵しています。詳しくは参考資料室カウンターでおたずねください。

★ 滋賀県内の地域史を調べる際の基本資料となる県史・郡史・市町村史については、「ナマズの知恵袋 第64号」(2021年12月)で紹介しています。また、地域の古文書を読む際に参考となる資料については「ナマズの知恵袋 73号」(2024年12月)で紹介しています。こちらも併せてご利用ください。



#### ● NDL ギャラリー 時代の風雲児・蔦屋重三郎

([https://ndlsearch.ndl.go.jp/gallery/gallery\\_exhibitions/202502](https://ndlsearch.ndl.go.jp/gallery/gallery_exhibitions/202502))

蔦屋が生きた時代と、出版物やその創作に関わった人々を、作品の画像と共に紹介しています。

\*\*\* 紹介した URL はすべて 2025 年 3 月に確認したものです